

KASHIHARA

檜原市第4次総合計画

概要版

「日本国はじまりの地 檜原」未来戦略



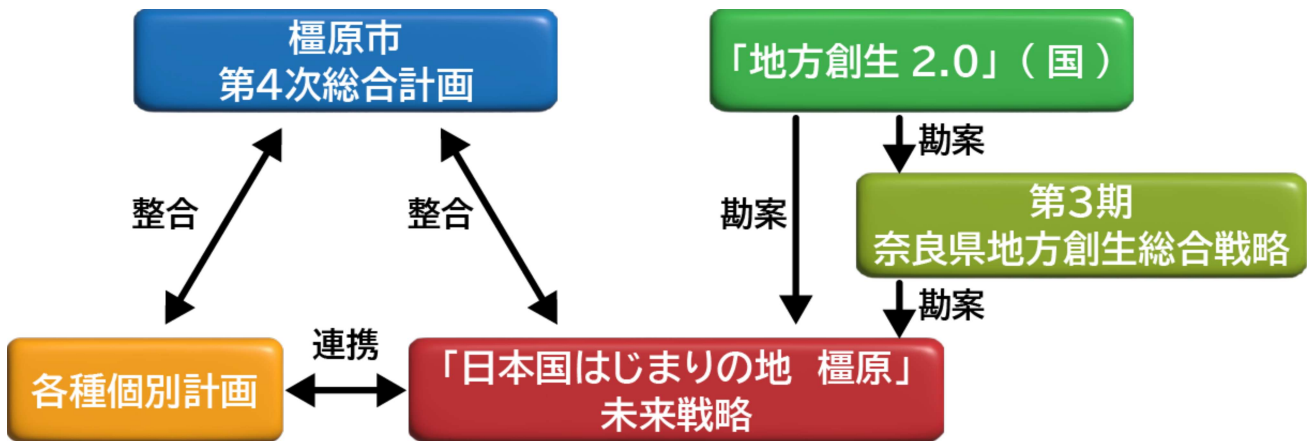
総合計画・「日本国はじまりの地 橿原」未来戦略とは・・・

橿原市第4次総合計画は、本市のまちづくりの基本的な方向を示し、各分野の行政経営の最上位となる指針です。橿原市民憲章に示された基本姿勢のもと、市民のニーズと社会経済情勢に即して具体化していくためのまちの将来ビジョンと基本的な政策を定めています。

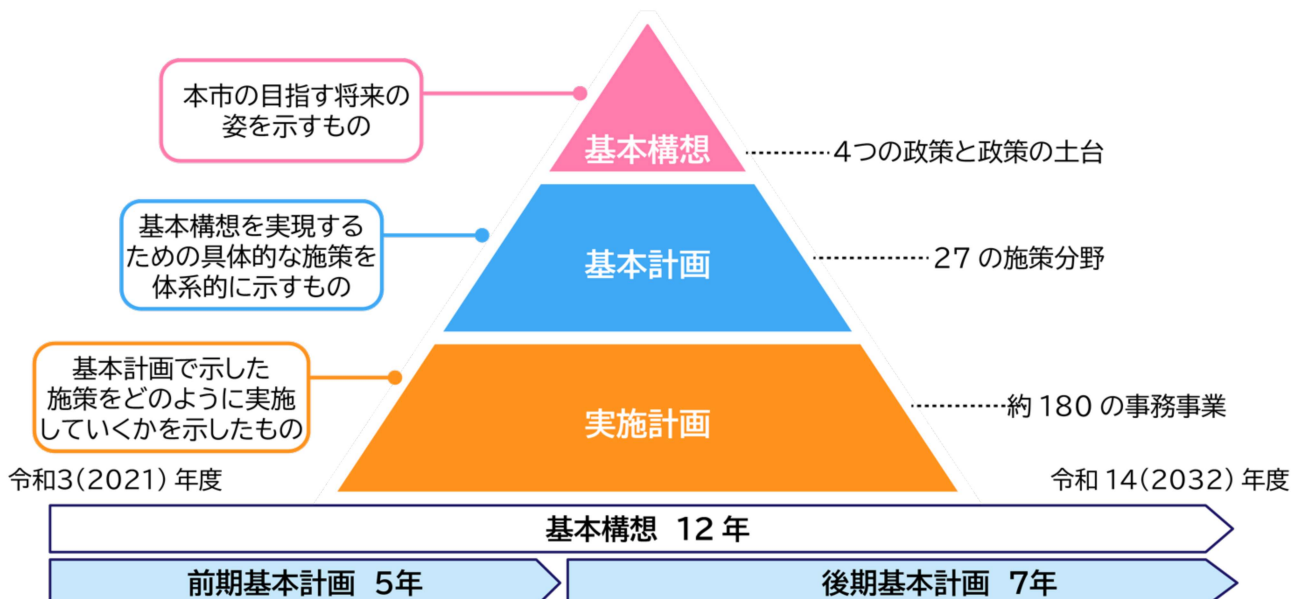
橿原市第4次総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構成の計画とします。また、橿原市行政改革大綱を包含するものとします。

「日本国はじまりの地 橿原」未来戦略は、本市の最上位計画である「第4次総合計画」の内容と整合を図ります。また、国が定めた「地方創生2.0」及び奈良県が定めた「第3期奈良県地方創生総合戦略」を勘案し、地方創生に特化した施策をとりまとめたものです。

総合計画などと総合戦略との関係



総合計画の構成や期間は？



計画の背景となる課題

①人口減少と少子高齢化社会

国の推計によると、日本の人口は令和47(2065)年には9,159万人まで減少し、橿原市の人口も約11万8千人から約7万人まで減少すると見込まれています。人口減少と少子高齢化に伴い、支えられる人に対して支える人が少なくなっています。

②災害をはじめとするさまざまな危機の高まり

大規模な地震や風水害が頻繁に発生しています。特殊詐欺やサイバー犯罪、高齢ドライバーによる事故など、日常生活における危機も増えています。常日頃から危機に備えることが求められます。

③感染症・健康危機による社会システムの変容

医療提供体制の柔軟性の確保、支援体制の平時からの整備、社会的包摂とセーフティーネットの拡充が不可欠です。日頃から情報収集や協力体制の構築などの取組みが求められます。

④急速に進化するデジタル化と技術革新

高齢者や障がい者、情報弱者への配慮を含めた「誰一人取り残さない」政策の推進が必要です。行政・教育・福祉・地域のあらゆる分野において、デジタル技術を前提とした運用体制の整備と、情報リテラシーの育成が不可欠です。

⑤多様性の尊重と支え合い

ライフスタイルの変化に伴い、地域や家庭における支え合いの基盤や、人と人とのつながりが弱まりつつあります。互いが個性や生き方を尊重し合えるような共生社会の構築が求められます。

⑥「持続可能」な自治体経営

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」という世界の潮流を踏まえ、限りある資源を有効に活用しながら、橿原市の仕組みを持続可能な形に最適化していく必要があります。

まちづくりの理念に込めた思い



市民をやさしく包み込む橿原、市民を強く守る橿原を、豊かな歴史文化とともに人と人が思いやり支え合いながら、市民と行政が協働して作りあげていくことを、まちづくりの理念とします。このまちづくりの理念は不変のものとして、第4次総合計画でも継承していきます。

将来ビジョンに込めた思い



「はじまりから未来へ」には、2つの意味があります。1つ目は日本国はじまりの地という橿原らしさと歴史の深さを次世代に継承しながら、来たる超スマート社会にも対応していくことです。2つ目は人生100年時代を迎えるなかで、人の一生の表現として出生から約100年の間、安心して暮らしていくことができる市になることを目指すことです。

「つながりきらめくまち」は、本市と関わるすべての人が、人や物、縁、歴史、自然などにつながることで、活気があふれてきらめくような人中心のまちを目指すことを意味します。

この橿原に住むことに喜びや誇りを感じることや、この地を訪れる人にも来てよかった、住んでみたいという魅力を感じるまちにしたいということから、この将来ビジョンを考えました。

4つの政策及び政策の土台

はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら

I ひとづくり <活躍>

保育・幼児教育／
学校教育／
子育て・子育て／
生涯学習・社会教育／
科学・文化芸術／
スポーツ

みんなが活躍し、
個性輝くまち

II ひとづくり <安心>

健康・医療／
地域福祉／高齢福祉／
障がい福祉／
市民協働／人権

みんなが健やかに、
支え合って
暮らせるまち

III まちづくり <安全>

防災／防犯／交通／
道路・橋梁・河川／
住環境・建築／
地球環境／生活環境／
下水道

みんなが安全に、
快適な環境で
生活できるまち

IV まちづくり <発展>

公園・緑地／
まちづくり・景観／
歴史・文化財／
観光・交流／
商工業・しごと／
農業

みんなが活力と
魅力を生み、賑わい
あふれるまち

V 政策の土台

行政運営

市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営

橿原市第4次総合計画の目指す姿

I みんなが活躍し、個性輝くまち

1 保育・幼児教育

子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。

2 学校教育

子どもたちが「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断し行動する力」を身につけています。

3 子育て・子育て

子育て世代が安心して出産や子育てをすることができます。

4 生涯学習・社会教育

市民がいつでも学ぶことができ、学びを社会に還元できる仕組みを作っています。

5 科学・文化芸術

市民が文化や芸術、科学への学びの関心を高め、知的豊かさを育てています。

6 スポーツ

市民がさまざまなかたちでスポーツに親しみ、健康で豊かに暮らしています。



園庭での子ども



実験工房



学習講座



飛鳥RUN×2リレーマラソン

Ⅱ みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち

7 健康・医療

市民が自発的に健康づくりに取り組んでいます。

8 地域福祉

市民が主体となって地域や社会のなかで支え合い、健やかに安心して心豊かに暮らせるよう、地域や社会が支え合える環境が整っています。

9 高齢福祉

住み慣れた地域で高齢者が生きがいをもって健やかに暮らしています。

10 障がい福祉

障がいのある人もない人も、誰もがお互いに尊重し支え合いながら、いきいきと暮らしています。

11 市民協働

市民が自らの意思と責任のもと地域の活動に参加しています。

12 人権

すべての人の人権が尊重される権利擁護の仕組みが整い、市民の誰もが差別のない社会を築く意識を持っています。



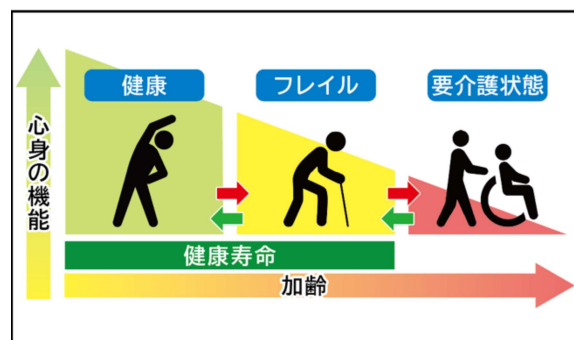
NPO活動風景



障がい者作品展「はあーと++」



日本女性会議 福原大会



フレイルの概念図

Ⅲ みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち

13 防災

市民が本市の災害リスクを知り、生命・身体・財産を守る体制ができています。

14 防犯

市民が防犯意識・消費者意識を自ら高め、犯罪が起こりにくい安全で安心な日常生活を送っています。

15 交通

自分に合った交通手段で、誰もが快適に市内を移動することができます。

16 道路・橋梁・河川

道路や水路が整備され、誰もが安心して暮らせる環境をつくっています。

17 住環境・建築

市民が住環境の心配ごとを相談でき、安心して暮らしています。

18 地球環境

持続可能な社会の実現に向けて、みんなが環境を守る行動をしています。

19 生活環境

良好な生活環境で市民が暮らすことができるよう、まちの衛生が保たれています。

20 下水道

適切な汚水処理により、市民が衛生的な生活を送っています。



総合防災訓練



クリーンセンターかしはら



防犯啓発のぼり



下水道工事

IV みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち

21 公園・緑地

市民等の参加により公園・緑地などの身近な潤い空間が管理され、誰もが憩いの場として快適に利用できています。

22 まちづくり・景観

近代的な都市機能と歴史的景観が共存しており、市民がそれらを本市の魅力と感じています。

23 歴史・文化財

文化財を調査し、適切に保存・活用することで、市民が文化財と触れ合うことができます。触れ合いを通して、その価値を理解し、本市の歴史に誇りと愛着を持ちます。

24 観光・交流

地域とともに本市の魅力をPRすることで、中南和地域の観光・交流の拠点としてまちに多くの人が訪れています。

25 商工業・しごと

起業や事業拡大により市内商工業が発展するとともに、働きやすい職場環境が整備され、多様な人材が活躍しています。

26 農業

環境にやさしい農業が営まれ、市民が食と農に関心をもっています。



白檀近隣公園



大和三山

V 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営

27 行政運営

持続可能な行政運営のための基盤が整っています。

「日本国はじまりの地 橿原」未来戦略

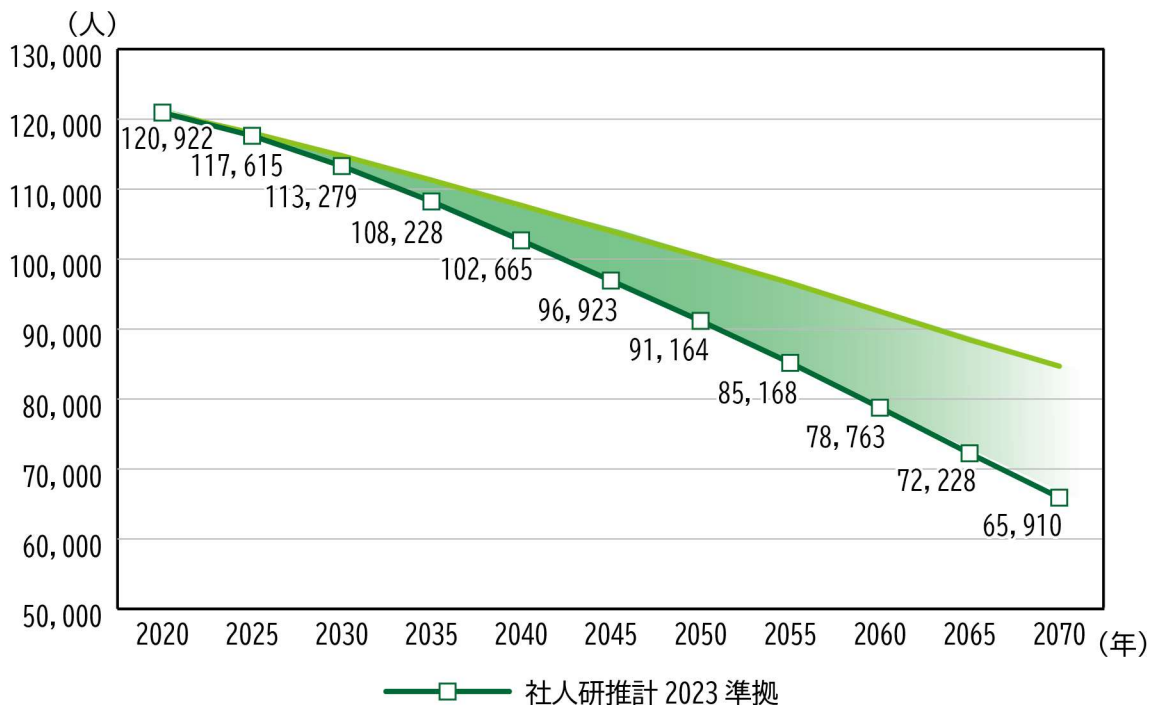
未来戦略の位置付け

日本の人口は平成20(2008)年に減少に転じており、今後さらなる減少が進むと予測され、本市においても人口減少が進んでいます。そのような事態を受けて、本市では、平成28(2016)年3月に「橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略ーみんな活躍するまち かしはら」を策定し、地方創生に取り組んできました。また、令和3(2021)年3月には「第2期橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、さらなる地方創生の取組みを進めてきました。

本戦略では、国や奈良県の総合戦略を勘案しながらも、地方創生の充実・強化に向けて、「日本国はじまりの地」という橿原市の独自性を踏まえつつ、橿原市第4次総合計画基本構想に定める将来ビジョン「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」を戦略的に実現することを目指して、『「日本国はじまりの地 橿原」未来戦略』という名称としています。

人口の将来展望(目指す方向性)

人口増加曲線を描くことが理想ですが、現状では実現することは難しいため、現状の人口減少の改善に取り組むつつ、市全体を活性化させる施策を検討し、目標の達成を目指します。取組みを継続するなかで、目標の達成が見込まれる場合は、新たな曲線を設定し、さらなる改善を図ります。



本戦略に活かす本市の強み

(1)歴史を活かす

“日本国はじまりの地 橿原”に象徴されるように、本市には大和三山や藤原宮跡など万葉の時代をしのばせる歴史文化遺産や、重要伝統的建造物群保存地区の今井町の町並みなどが残されており、これらをつなぐ物語性のある歴史自然環境は、他に類を見ません。この優れた資源を大切に継承するとともに、これらを積極的に活かしたまちづくりを進めます。



(2)交通利便性を活かす

古くから東西南北の交通・交流の要衝として栄えた本市は、京奈和自動車道の完成を目前にして、広域的な核として新たな発展の可能性が高まっています。この優れた条件を活かし、働く場があり、便利で活力あるまちづくりを進めます。



(3)住みやすさを活かす

本市は奈良県の中心都市として、生活施設が整い利便性の高い住宅地の整備が早くから進められてきました。また、奈良県立医科大学を中心とした最先端の医療環境や、あらゆるスポーツに対応できる施設も整備されており、たくさんの人々が交流する地となっています。こうした住みやすさを維持・向上し、さらに住みたくなる魅力を備えたまちづくりを進めます。



基本目標1

地の利を活かしたしごとの場づくり ～誰もが活躍できる働き場の提供・支援～

重点施策(基本的方向)

- 企業誘致による多様な人々が働く場の提供
- 起業(開業)・創業への支援



檀原市事業者支援ガイドブック

基本目標2

新たな人の流れや交流を盛んにする 魅力づくり ～歴史・文化・自然を活かして創る周遊コンテンツ と魅力発信～

重点施策(基本的方向)

- 檀原の魅力を知ってもらうための市内周遊コンテンツ・滞在環境づくり
- 関係人口の拡大に向けた人流の増加



ストリートファイターと
コラボした
檀原周遊マップ

基本目標3

安心して子どもを産み育てられる環境づくり ～専門家と地域で紡ぐ誰一人取り残さない子育て 支援・教育～

重点施策(基本的方向)

- 子どもの健全な発達、育成を支援する体制づくり
- 特色を活かした教育環境の推進



教育のDX化

基本目標4

安心して健康に暮らせるまちづくり ～一人ひとりが豊かに暮らせる「健幸」の普及～

重点施策(基本的方向)

- 一人ひとりのニーズにあわせた日常的な健康づくり
- 安全・安心に暮らせる環境づくり



今日からはじめる
ウォーキング講座



こだいちゃん さららちゃん

橿原市第4次総合計画
「日本国はじまりの地 橿原」未来戦略
< 概要版 >

発行： 橿原市
発行年月： 令和 8（2026）年 3 月
編集： 橿原市企画政策課
〒634-8586 奈良県橿原市八木町 1 丁目 1 番 18 号
Tel： 0744-22-4001（代表）

計画の本編は市ホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.kashihara.nara.jp/>
お問い合わせは橿原市企画政策課まで。Tel： 0744-21-1108（直通）